

【テーマ1: 教員研修の成果の客観的な評価方法、及び効果的な運用方法の 開発による評価モデルの確立】

【団体名】

国立大学法人京都教育大学

モデル開発概要

現場における課題

教員研修の成果確認に要する過剰な労力と成果確認に対する信頼性の低さ

モデルの概要

(1) 全体的・客観的確認: 成果確認のセルフチェックアプリを「教員育成指標」に即して教員研修のタイプ別に開発し評価モデル化する。(2) 汎用性の確保: 開発した評価モデルの効果的な活用法を公開する

活用する技術・ツール等

教員研修の成果確認のセルフチェックアプリ

高度化に資する取組

教員研修の成果確認を7項目に整理した。

- ①一年間の研修成果から自己肯定感、自己有用感の確認
- ②一年間のSD教員研修（自己研修）の成果確認
- ③一年間のOFF-JT（研究大会・研究会）の成果確認
- ④一年間のOFF-JT（法定集合研修）の成果確認
- ⑤一年間のOJT（研究授業・校内研修会等）の成果確認
- ⑥一年間のOJT（教育課題）の成果確認
- ⑦一年間の教育、授業改善のためのエビデンスの確認

この7項目の教員研修の成果確認アプリを作成した。

現職教員、教職予定者に対する実走テストを実施し、アプリの意義、有効性について確認した。

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ 簡便で利便性の高い教員研修の成果確認アプリを活用することで教員研修の成果報告書作成に費やされている現状を改革できる。
- ◆ 教員研修のタイプ別に成果確認を行うことで、それぞれのタイプに即した研修の成果確認を的確に行うことができる。
- ◆ これまで問題視されながら、十分な取組が行われてこなかった教員の「自己肯定感・自己有用感」の向上に資する教員研修の成果確認を行うことができる。